



第32号
平成25年
2013

会 報

にしきうら



森岡前会長に感謝状贈呈



平成25年度文化祭の仮装行列

高知県立須崎工業高等学校同窓会

目 次

ご挨拶	同窓会 会長 林 和夫	1
八年間有り難うございました	前同窓会会長 森岡 清	1
ご挨拶	校長 佐々木菊雄	2
学校の近況について	教 頭 細美 俊彦	3
進路指導部より	部 長 土方 聖志	4
2013年柳川ソーラーボート大会		
優勝報告	造船科教員 松本 勝	5
支部便り		
関東支部だより「人生つれづれ」	川西 利通	7
中京支部だより「定年後の生き方」	高橋洋太郎	8
京滋支部だより	渡川 嗣郎	9
大阪支部だより「大阪支部の活動」	増田 浩	10
高知支部だより	林 和夫	11
須崎支部だより	梅原 正博	13
窪川支部だより	西内 一隆	13
幡多支部だより	宮本 博行	14
中西安男前副会長を偲ぶ	竹村 寿夫	14
事務局だより 25年度総会報告	事 務 局	16
終身会費納入済者名 平成22年12月～25年8月まで		17
決算報告 平成22年度～24年度		19
平成25年度 一般会計・特別会計予算		23
平成25年度～27年度役員		24

ご挨拶



昭和四十一年化学工業科卒
高知県立須崎工業高等学校 同窓会

会長 林 和 夫

各地の同窓会員の皆様方におかれましては益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さてこの度、平成二十五年度同窓会本部理事會において森岡会長の辞任表明があり、諸先輩方が沢山おいでの中ではありますが不肖私が会長職を受け継ぐことになりました。前会長が長年にわたり同窓会の運営・発展にご尽力して下さったことは、私はもちろん会員の皆様方もご存じのことと思いますが、私自身は何分にも力量不足で運営が十分に出来るのかどうか心配でなりません。しかし他の役員さんや会員の方々のお力をお借りしながら同窓会運営の継続と発展に少しでも寄与出来るように努力したいと決意しておりますので宜しくお願い致します。

私が同窓会に関わりだしたのは、平成五年頃だったと思いますが旧春野町立春野中学校に在職中、出入りの文房具納入業者であり同窓会高知支部の役員をしておりました福永徳七郎さんの息子さんより声掛けがあり支部總會に出席したことが始まりで、現在も支部長として務めさせて頂いています。

高校時代は化学工業科で相撲部員の一人として活動していましたし、中学校教員を職業としていたもので、教え子の高校進学や相撲部OB会等で母校には関わって来ましたが、職業柄でありましか、同窓の職業仲間が少ない等で同窓会との関係はあり

挨拶

ませんでした。

しかし、私の独り言ではありますが、宿毛市の田舎の小筑紫中学校から、バスや旧窪川駅から煙を吐く汽車で七、八時間かかって須崎駅に着くという遠方から、あこがれの須崎工業高校へ入学でき、寂しくてつらい下宿生活の中で勉学にスポーツに打ち込めることが出来たのは、貧しい家庭環境の中での親の援助はもろいんですが、先生方や学友、相撲部の監督、先輩、仲間の方々のおかげであり、今の自分を育ててくれた一番の要因であります。

ですから、今でも母校に対する感謝の気持ちは揺らぐことはありませんし、母校のために必要なことであり要請等をされれば今までもいろんな事をやってきました。

皆様方にもそれぞれの思いがあり母校と関わっていると思いますが、同窓の一人として高校時代を回想し、仲間や周りの方々と協力し、それぞれの立場で同窓会を応援して下さいように重ねてお願い致します。

最後になりましたが、今後の須崎工業高校のますますの発展と在校生の前途に幸多からんことを祈念し挨拶と致します。

八年間 有り難うございました



前同窓会会長
森岡 清

八年前のこと、当時の同窓会事務局局長井上耿介さんから、同窓会の会長を引き受けてくれという話が来しました。私は同窓会長などというお役目はとても重たくてお引き受け出来そうもないとお断りをさせてもらったのですが、耿介さんの話は少々重大で「今、須工が隣の須高に併合されそうになっています。これについては、高知県の教育界にも詳しい森岡先生に会長をお願いして、何としてもそれを回避しないといけない」と言うことでお願いに来ました」と言われました。

私は、仮に私が同窓会の会長になっても、この須高への併合の話は消えることは無く、要は須工の地域での必要性にかかっていて、そしてそれは母校への志願者数がものをいうと思い、学校ならびに同窓会会員の皆さんに須崎工業への志願者数増への啓蒙の重要性を訴えてきました。

学校では、当時の橋本校長先生をはじめ先生方、さらには保護者の皆さんがそれぞれのお立場で継続的に、このことに最も効果のある卒業生の進路の一〇〇%確保に力を尽くされ、さらに近年においては

造船クラブのソーラーボートが二度にわたり全国一位を獲得して新聞紙上を賑わすなど、こうした話題も今後の母校の名声を一層高め、ひいては母校への志願者増にもつながると確信しています。それら数々のご努力に対して心から御礼を申し上げます。

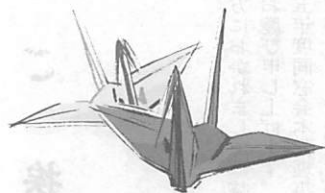
さて、私の後任には、昭和四十一年化学工業科出身の林 和夫氏にお願いすることにしました。

林さんは、在学中は全国制覇も成し遂げた相模部で活躍され、現在高知支部長を兼任されていて、そのお人柄、実行力ともに優れた実力をお持ちで、我が同窓会長として相応しい人物と考え推挙させていただきます。

どうかこれまで私にお寄せいただいたご協力を、引き続き林氏にいただけますようお願い申し上げます。

最後に、これまで八年間、遠くにあっても近くにあっても、常にご協力いただいた同窓会員の皆様に心からお礼を申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。

八年間ほんとうにありがとうございました。



ご挨拶

同窓生の皆様方におかれましては、ますますご健勝で活躍のことと存じます。

日頃は同窓生の皆様方には、母校のためになにかとご協力ご支援をいただき感謝申し上げます。特に昨年は同窓会より懸垂昇降装置をご寄付いただきました。誠にありがとうございました。お陰様を持ちまして生徒たちの活躍を、外部の方たちに広く知っていただくことに大いに役立ち、生徒たちの励みとなっております。この場をお借りいたしましてお礼申し上げます。

ところで、本校は昭和十六年に高知県立須崎工業学校として開校し、本年度で七十二周年を迎える歴史と伝統を誇る工業高校として発展してまいりました。卒業生も一万名を超え、工業立国「日本」を支える工業技術者として県内外において活躍しています。同窓会も本部はもちろん、高知支部や関東支部、大阪支部としっかり組織され、日頃ご支援いただく機会ごとに同窓生の皆様の、母校に対する熱き想いを感じさせていただいております。本校は「信頼と尊敬に値する工業技術者の育成」を教育目標に掲げ、生徒を立派な社会人として通用するよう、日々教育活動に教職員一丸となって取り組んでいます。その甲斐あって、本校は近年の不安定な経済状況の中においても、ここ数年「就職決定率100%」を継続して

高知県立須崎工業高等学校

校長 佐々木 菊雄

まいりました。これは、本校教職員の働きのみでなく、同窓生の皆様が頑張っているからこそであると感じたいしております。本年度も、就職試験が開始されました。三年生も皆様方の後を追って社会に巣立つ準備を着々といたしております。どうか、今後におきまして後輩に対するご支援をお願い申し上げます。

さて、学校の方とは申しますと生徒たちは頑張ってくれております。本校の特色である「ものづくりを通じて地域貢献」においては、ドラゴンカヌーを筆頭に滑り台の寄贈や津波避難所マップの作成、クリアカヌーの寄贈などがあります。また、海岸清掃や通学路清掃などといったボランティア活動も行つてまいりました。こういった取り組みを通じて、地域から信頼される学校づくりを目指しています。また、本校の更なる特色を打ち出すために、昨年度より「ホームヘルパー2級」の資格が、高知県教育委員会の支援により受講料無料で取得できる学校になりました。こういった取り組みは高知県下でも珍しく、高吾地域では本校のみとなっております。生徒たちは夏休みの暑い中、熱心に受講していました。そして、何よりもうれしい出来事がありました。

この八月に福岡県柳川市で開催されました、「柳川ソーラーボート大会」におきまして、本校・造船部が「ス

ラローム・学生の部」で優勝・準優勝を果たしました。また「周回・学生の部」におきましても第三位となり、上位を独占するという好成績を収めました。これは、「周回・学生の部」で「初優勝」いたしました。一昨年を上回る、この上ない快挙であります。優勝祝賀会においては、同窓会や同窓会高知支部・須崎支部より祝い金もいただき、誠にありがとうございました。

生徒達は、「今回の優勝・準優勝は周囲の皆様方の協力のおかげである。」と感謝するとともに、今後更に精進し、「周回の部・スラロームの部二部門制覇」という新たな目標に向かって取り組んでいくことを、すでに決意いたしております。きつと今までどおりの真摯な姿勢で取り組む限り、その目標は達成されることと確信いたします。

このように、生徒たちはそれぞれの立場で様々な活躍をしてくれております。学校としても「高吾地域の子どもたちの豊かな将来を保障する学校」を目指して頑張っており、その目標は達成されることと確信いたします。

最後になりましたが、須崎工業高校並びに本校同窓会の今後ますますのご繁栄と、同窓生の皆様方のご健勝をご祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

学校の近況について

教頭 細 美 俊 彦

須崎工業高校同窓生の皆様におかれましては益々ご清祥にて各方面にご活躍のことと存じます。また、日頃は母校並びに後進の指導にご理解をいただき、ご協力・ご指導を賜っておりますことに感謝申し上げます。

私は、昨年度から教頭として勤務しております細美俊彦でございます。須崎工業高校は今回初めてお世話になっております。教科は理科で、工業高校は三十年ほど前に一年間勤務しただけで久しぶりの勤務です。どうぞよろしくお願いいたします。以下、学校の近況についてご報告いたします。

学校行事

毎年の開校記念行事には同窓会より後輩へのメッセージとして記念講演をいただいております。

平成二十三年度は、創立七十周年に当たり、昭和三十九年三月機械科卒業の鍵本肇氏より「私の卓球人生」と題して講演をいただきました。県体で優勝し、インターハイに出場、また早稲田大学進学後も全国大会で何度も優勝し、世界卓球大会で日本が優勝した時のメンバーでもあった氏に、「目標」を持って取り組むことの大切さについてお話ししていただきました。また、講演後は生徒に実技指導をしていただきました。

また、二十四年度は、当時同窓会長で、本校元校

長の森岡清氏に「人生」という題で、また、二十五年度は本年度より同窓会長となられました、林和夫氏に「私の高校時代」という題で講演いただきました。

生徒の状況

現在本校は、機械科、造船科、電気情報科、ユニバーサルデザイン科の四科編成となっております。本年度生徒数は、二百七十九名（一年百十二名、二年八十六名、三年八十一名）となっております。

平成二十四年度の卒業生は九十一名で、機械科二十四名、造船科二十名、電気情報科二十四名、ユニバーサルデザイン科二十三名が新たに同窓会の会員となっております。先輩諸氏におかれましては今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

学校活動

校内ドラゴンカヌー大会は平成二十五年度で第十二回を迎えました。高知県教育委員会・須崎市役所・漁協関係者をはじめ、保護者等のご支援・ご協力で開催することができ、今後も特色ある学校づくりと学校の伝統行事として取り組んでまいります。優勝は三年ユニバーサルデザイン科チーム、準優勝二年機械科チームでした。また、須崎市のドラゴンカヌー大会も第十五回を迎え、PTAチームが参加しました。先輩と教職員と一緒に製作し、須崎市に寄贈したドラゴンカヌーを使って有意義な一日を過ごすことができております。

さらに、須崎市主催の第六回ドラゴン甲子園に本校から二年機械科チームと三年電気情報科チーム、そして体育系クラブ三チーム、計五チームが出場し、

本校チームが優勝、準優勝を占めるなど活躍をしました。

部活動

今年五月～六月に行われた県体の結果、本年度は水泳部が四国大会に出場しました。他の部も上位進出をめざし、毎日練習に励んでいます。

また、文化部関係では、造船部が毎年福岡県柳川市で行われている「柳川ソーラーボート大会」で、一昨年と今年見事優勝を飾りました。特に今年はスラロームの部で、出艇した二艇が優勝、準優勝を独占し、全国に須崎工業の名をあげました。

地域貢献

少子高齢化が進み、高校学齢期の生徒が減少しているこの時期に学科の維持を最優先に、大いに情報発信を行い、地域貢献を行っています。

八月に、昨年度から、「夏休み小学生親子ものづくり教室」を、夏休みの自由研究の一つにと始めましたが非常に好評で、二年とも定員いっぱいのお申込みがあり、親子ともに喜んでいただきました。小学生のうちから工業高校について、保護者共々知ってもらおうという、遠大な計画ですが、息の長い取り組みにしたいと思っています。

また、昨年度は、ユニバーサルデザイン科がJR須崎駅のトイレにレリーフを製作、あおい保育園にすべり台を寄贈、須崎市に津波緊急避難場所案内図を製作するなどの地域貢献を行い、須崎市より感謝状をいただきました。また、機械科はあおい保育園の遠足で、「トーマス機関車」の乗車体験を行っております。造船科は遠足で恒例の安和海岸の清掃活動

を行い、また、今年七月には大月町の黒潮実感センタ―にグラスボートを寄贈し、感謝されました。

また、南海地震対策として、本校は須崎市の津波避難場所として指定され、地域の防災対策に協力していくことになっておりますことをご報告します。

本年九月一日に、地域の方と学校がともに避難所開設訓練を行いました。今後も施設設備の充実を図り、

進路指導部より

部長 土方 聖志

同窓会会員の皆様方には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日ごろは本校教育推進のためにご理解ご協力を賜り、心からお礼申し上げます。本校の進路指導の取り組みと平成二十五年度の進路状況について報告させて頂きます。

○進路指導部の取り組み

「キャリア教育」の実践

本校は、一・二年生を対象とした職業レディネステスト等を使った自己分析や職業選択に関する授業、三年生を対象とした進路講演会(マナーアップ講座、就職筆記試験対策等)、PTA役員による模擬面接指導、保護者を対象とした進路講演会など多くの外部の教育力をお借りして「キャリア教育」を実践しております。これらの取り組みは、生徒の学校で学ぶ意味や自己理解、他者理解、地域理解へとつながり、

地域に貢献してまいります。

最後に、同窓生の皆様には、昨年六月に本校玄関横北舎側面に懸垂幕装置を寄贈していただきましたことに、感謝の意を表しまして、学校の近況報告とさせていただきます。また、引き続き本校へのご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、同窓生の皆様方のご健勝を心からお祈りしております。

「キャリア教育」の目標とする、子どもたちが主体的に自己の進路を選択・決定できるしつかりとした勤労観や職業観を身につけることができるようになるを考えます。

地域企業の方々や各関係機関の皆様の協力を持つて成り立っております。今後も継続して、生徒に「よい刺激」「考える力」を与えるプログラムを計画・実行したいと考えております。今後ともよろしくお願ひします。

○平成二十五年度進路状況について

(十月四日現在)

三年生八〇名の進路希望状況は、就職希望者が七一％(県内二九％、県外四二％)、大学・短大への進学希望者が七％、専門学校等への希望者は二二％です。「就職に強い須崎工業高校」ということで近年就職希望者が増えています。

【就職】に関しては、求人数が昨年度末の三七八社から四一六社(県内七一社、県外三四五社)と一・一倍増加。有効求人倍率は約七・三倍であります。内定先としては、県内(住友大阪セメント、四

電工など)が最も多く、続いて中四国(JFEスチール、アイエイチアイマリンユナイテッドなど)、関西(神戸製鋼、ダイハツ工業など)、東海(デンソー、トヨタ自動車など)となっております。【進学】に関しては、ほとんどが指定校推薦を利用しており、難関校へも専門高校推薦枠を使って受験するケースが増加しています。本年度も昨年同様、県立高知工科

2013年

柳川ソーラーボート 大会優勝報告

造船科教員 松本 勝

それは二〇〇二年の夏のことでした。当時わたしは大分県に本社を置く某舟艇メーカーに勤め、会社が出場していた柳川ソーラーボート大会にチーム代表である上司に誘われ、遊び半分でビクトクルーとして参加していました。第一目の周回予選終了後、パドックテントでビール片手にチームメイトと談笑していますと、チーム代表が「おい松ちゃん高知県から須崎工業が来るぞ、お前の母校だろ」と言われパドックテントを訪れると、「予選落ちをしたのでこれから帰ります」とのこと、引率の先生に話を聞くと電気科の生徒と先生で来られたとの事、私自身本校の造船科に在籍中、造船部に所属しFRP製カッターや漁船を建造した実績もあり、その母校の何科であろうが、オモチャの様なボートの競い合い

大へ受験者全員が合格できるように頑張っております。なお、平成二十五年年度の最新の進路状況につきましては、学校ホームページ等をご覧ください。

最後に、生徒の進路保証に関しては、何よりも同窓生の皆様方のご支援があつての結果であると考えております。今後ともかより一層の母校へのご支援をお願い申し上げます。

でも須崎工業高校がモノづくりで他県の工業高校に後れを取ったことが我慢ならない気持ちでいっぱいでした。この時「どうせやるなら一番を取らなきゃやる意味ないぞ」と思い立ち、先輩である造船科の西山先生に早速電話をかけたことを今でも鮮明に覚えています。

その翌年の大会に、現在の造船科の木下先生が見学に来られ、その日からボートの構造、船体設計、プロペラの製作方法から減速比やセッティング等のノウハウを伝授、二〇〇六年大会には「SASUKE」を見事に仕上げ造船科として初出場しました。

この時の「SASUKE」は船体重量が若干重く、船体の重心が高いという欠点はありましたが、船速8ノット超えは出ており、学生部門上位入賞は間違いないと確信していました。しかし決勝レースで他艇の起こした波に煽られ転覆、リタイアという結果に。この時私は他チームのクルーでしたが、自分のチームはほつたらかし、待てど暮らせど帰って来ない「SASUKE」を西山先生と最終コーナーで待ち続けていた事がついこの間の出来事の様です。

その後私は一身上の都合で二〇〇九年一月に会社を退職、四月から本校で臨時講師としての道が付き、

この年の大会から須崎工業高校造船部の顧問として生徒を指導することになりました。この時すでに「SASUKE」の欠点を補った「Suko」が設計製作され、減速比のセッティングと電流制御などの調整をすれば大会に参加可能な状態になっていました。幾度かの減速比の変更により船速は9.5ノット程度まで伸びましたが、この年の周回予選では過電流によるモーターフルで十分なタイムが出せず予選通過できませんでした。しかし船体の重量等まだかなり改善の余地があり、その潜在能力に大きな可能性を確信した瞬間でもありました。そして翌年、大幅な重量軽減や減速比の改善により、更に船速は10ノット超えを確保した「SukoII」で操船練習を重ね、二〇一一年大会でついに他校を大きく引き離し「周回レース学生部優勝」を手に入れました。

この年、大会から戻り高知県教育委員会へ大会結果の報告のため県庁を訪れた際、生徒自らが連覇の公約をすると共に、中澤教育長から「どうせやるなら学生で一番になるだけでは無く、社会人チームも追い抜くぐらいになってください。」との力強い激励を頂き、これを実現できるのは当分先の話と思いながら県庁を後にしたことでした。しかしそれが実現するのになった二年しか要しなかったとはこの時夢にも思いませんでした。それは私だけではなかったと思います。

しかしこの年の優勝を機に、同窓会からの多くの援助や須崎市の方々からの応援を頂き、須崎工業高校造船部のソーラーボートチームは大きな目標を立てます。柳川ソーラーボート大会の常勝チームであり、全ての競技のレコードホルダーの社会人チームに狙いを定め、翌年「SukoII」より更に軽量化

支部便り

関東支部だより

人生つれづれ

昭和四十一年機械科卒業
副支部長 川 西 利 通

昭和四十一年三月某日、四万十川の上流の流れも消き芳生野（現在の津野町芳生野）を、夢と希望にあふれた男が一人、桜の花と家族に見送られ社会への第一歩を踏み出す。

東京駅では人波に驚き、八重洲口では地下街の工事中、見上げるビル群には目まいを感じる。「これが東京か…遙々きたぜ東京へ。」道路の上空には架線が張られ、都電やトロリーバスが東京中を走り「爽やか律子さん」でおなじみのボーリングが大流行の時代、江東区北砂二丁目「砂町銀座」近くの某製作所に入社する。

戦後の第一次ベビーブームの申し子、競争相手も数多く「負けたらいかんぜよ」の気概。「石の上にも三年、何事も辛抱だ」の耐える時代も、幾多の挫折を味わう。「成らぬ堪忍するが堪忍も限界が迫る。

昭和五十年、一念発起、人の役に立つ充実感のある仕事を求めて公務員（消防職）へのチャレンジは幸いに合格となる。妻子を持つ身の転職は大きな不

関東支部役員名簿（平成25年10月）

役 職	氏 名	郵便番号	住 所	電 話	E-mail
支 部 長	福 井 幸 正				
副支部長	川 西 利 通				
副支部長	逸 見 悦 子				
会 計	山 本 治 則				
会計監査	岡 本 仁 一				
幹 事	堀 内 靖				
幹 事	荻 部 幸 子				
幹 事	原 口 芙紗子				
顧 問	野 瀬 公 介				

安になるが気分刷新、第一歩である。

勤務は二四時間の交代制。新人の仕事は食事の買出しから支度まで。年若い先輩とは意に沿わぬこともあるが「和気あいあい」を心に決めて。嫌がるトイレ掃除も率先する。

日々の訓練は「人命救助の第一歩」迅速、確實、安全の基本訓練に懸命に取り組む。

昭和五十二年冬のある日、商工会議所が主催する話し方コンクールに参加、「三日でタバコをやめる方法」の演題で優勝をする。そして局長表彰を受ける事態になる。

翌年、現場勤務から予防課に異動となる。

消防関係法令集を小脇にかかえ、難しい法令用語は日々勉強である。査察担当では違反の是正に努めるが行政指導という垣根がじやまをする。広報担当では火災予防運動で地域のケーブルテレビの番組に出演。女性アナウンサーとの約二十分間の防火の宣伝は記憶に残る。消防恒例の出初式では、伝統のしこ乗りの妙技を入場から退場までナレーションで演出する。緊張の続く約三十分間は観客の大きな拍手に達成感あり。この役目は後継者が見つからず十年間も続くことになる。

通信指令課十年の勤務は、災害通報受信のオペレーター。住宅地図を片手に場所の特定を急ぐ。出動指令は肉声で、実に効率の悪い勤務状況であった。通報は酔ったお客の人生相談、ある時は精神不安定な人からの意味不明な通報。緊急通報以外でも親切丁寧な対応と的確な判断が求められる。現在は近代的なコンピュータ制御の設備で迅速的確な出動体制であるが、通報は言葉のやり取り、冷静沈着な対応はいつの時代も変わらない。

そんな消防生活も上級幹部といわれる分署の責任者となる。職員の健康管理、生活態度の注視等、休日でも気持が休まることはなかったが、三十二年間の公務員生活は皆の協力で全体の奉仕者として大任を果たせた思いである。

定年退職後は、心身共の休息を考えていたが「働く場所があるうちは働いたほうが健康にも良い」との助言で再任用を決意、再び慣れ親しんだ予防課勤務は四年間となる。

更に平成二十四年四月から、県内二十二カ所の介護福祉施設を運営する会社から、防火管理体制の強化に火災予防に精通した職員を求めていると再々雇用を打診され受ける。職場で得た知識と技術が再び社会で求められていることは幸甚なことである。各施設での毎月一回の防災指導は職員の危機意識も高くなり、成果がでてきていると自負する。

安全・安心な施設を願って「さあ、今日も元気で行ってきます。」あれから四十七年。思えば遠くに来たものだ。



中京支部だより

定年後の生き方

昭和四十三年化学工業科卒

高橋 洋太郎

今年は、八月末でも残暑きびしい日々が続いております。

今回、支部長より中京支部のこと、個人的な事等なんでもいいから書けと、同窓会会報の原稿依頼があり筆をとりました。

思えば、昭和四十三年に須工を卒業して大阪の化学会社に入社し、一年で退職して名古屋の紙器会社就職、現在北名古屋に住んでおります。

平成二十二年に、紙器会社を退職して、今は契約で化学会社に従事しております。

今後、定年後をどう生きて行くかと自分を振り返り、進めさせて頂きます。

今まで、営業、製造畑のみで歩んでまいりましたが、幸いにして長期に亘り健康面、仕事面で大過なく、生きてこれたのも、妻の支えが大きく影響していて、感謝の気持ちで一杯です。

須工時代には、山登りが好きで播蛇森、鶴松森、不入溪谷等何回も登りました。名古屋に住んでからも夏山は、八ヶ岳、西穂高、立山等によく登ったものです。結婚を機会に、妻が心配するので登るのを中止致しました。その分二人での旅行のなかで、心の中で登りたい気持ちになることもあります。

今後の事は、営業面の仕事が多く、自分の脳裏に



木曾駒ヶ岳 千量敷カール

支部が多くの仲間て故郷を語りあえる場として役立てれば、幸いです。

◆ 中京支部からのお願い ◆

東海四県在住の須工卒業の皆さん、今年就職された皆さんに住所連絡のお願いです。

中京支部では、転居などで住所不明になった方や、就職後の住所が分からず、支部からの連絡がとれない方がいます。中京支部からの行事案内などが届いていない方は、左記までご連絡ください。

〒四八七—〇〇三四

愛知県春日井市白山町三丁目十四番地十一

沖 良二

(電話・FAX 0568—51—7356)

京滋支部だより

昭和三十一年機械科卒

支部長 濱 川 嗣 郎

同窓会の皆様、お変わりなくお暮らしの事と存じます。今年も猛暑豪雨、それに加え竜巻被害が各地で出ました。今年は三年ぶりの同窓会本部の総会が開催されました。「にしきうら」発行の年でもあります。支部便りの原稿依頼がありました。京滋支部の現状は何も活動が出来ておらず、お知らせする事が有りません。

そこで京滋支部の設立から今日までの歩みを振り返って見たいと思います。私が大阪から京都に来て



から間もなく京滋支部発足の話がありました。人集めから始めました。学校からの資料を基に会員名簿の作成、行事立案らで苦労しました。同窓会本部、事務局、他支部のご尽力で近畿支部からの一支部としての第一歩を踏み出しました。特に発足時において奔走して下さった先輩たちの苦労は大変だった事でしょう。そして少ない人数で頑張ってきた支部会員の熱意で平成四年四月二十六日、京都にて正式に

京滋支部が誕生しました。支部総会には本部や各支部の皆さんに遠路はるばるお越し頂きました。そして色んな事を御指導賜わり有難う御座いました。支部会員の出席数が少なく申し訳なく思う事が度々でした。そんな時でも田村さんは熱心でした。特に京滋支部だより発行に関しましては、「にしきうら」が三年に一度の発行になりました。その間、京滋支部だよりを発行する事になり大変な苦勞でした。費用の問題で本部理事会で会費の増額も提案し認めて頂きました。各支部の皆さんのご好意に感謝しています。原稿集めから発送まで率先して働いて下さいました。我々も精一杯協力して第一号から第七号まで発行する事が出来ました。本部役員や他支部の方々の寄稿も沢山有ったお蔭です。その後、会員数も増えず、徐々に活動も停滞し支部だより発行が途絶えて終わりました。京滋支部も平成四年に結成。私が引き継いだ時は前支部長の三人、役員幹事の方々の協力を得て何とか進めて来ました。当初は年の差に関係なく行事に参加されて来ました。その後は、年々行事の参加者が減り、役員会もいろんな事情で集まる事が困難に成りました。昨今は個人情報関係等で新卒者の動向も全然わかりません。会員数も当初と同じ。消息も段々薄れてきます。こうした状態では同窓会の活動も衰退の一途を辿るしかありません。この様な事態に陥ったのも、他ならぬ自らの力の及ばなかったこと、努力不足に起因しています。先達諸氏が築き上げてくれた京滋支部をこんな状態にして誠に申し訳なく思っています。こんな事では京滋支部は自然消滅の憂目に陥ります。

そんな中、支部運営に一番熱心だった田村武夫氏(昭和二十九年造船科卒業)が突然亡くなりました。

平成二十三年十二月初めでした。大変お世話になった田村さんの面影を偲んでみたいと思います。近江八幡市に在住。田村さんはとっても登山やハイキング好きでした。奥さんと二人仲良く出掛けていました。最初は奥さんと連れられていったのが始まりだったようです。山ボーイ(？)、山ガールの服装もバッチリきまっています。北海道は大雪山、屋久島の縄文杉から各地の山やハイキングコースを歩いてきました。大人の山歩きです。年賀状は毎年、登山姿の写真付でした。お二人元気で仲良く登山。笑顔でひと休みしている写真です。支部行事には夫婦揃って必ず参加して下さいました。野洲市の三上山を背景にしたグラウンドゴルフ大会は二人はいつも上位。ホールインワンを決めた顔が印象に残っています。琵琶湖水郷めぐり、八幡堀、(テレビ時代劇の撮影で有名)赤こんにやくも初めてご馳走になった。その他各地を案内して貰いました。あんなきやしやな身体のごに強靱な体力、スタミナが有ったんだろう。日々鍛えていたと思われまふ。支部の運営が難しい時に、悲しくて残念でなりません。今後の進むべき道を相談し、導いて貰いたかったのに。あちらの方でさぞかし怒っている事でしよう。見守って下さい。ご生前の同窓会活動に対するご尽力、ご協力に感謝し、ご冥福を心よりお祈りいたします。

京滋支部の現状を書きました。年齢を重ねる毎に体力も気力も落ちてきます。今のうちに何とかしなければと思っはいます。本部役員の方々、各支部の皆さんのお力添えをお願いいたします。特に大阪支部の皆さんの多大なご協力を何卒宜しくお願い致します。支部総会にも出席させて頂きお頼みしなければと思っています。

最後に同窓会員の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り致します。

大阪支部だより

大阪支部の活動

昭和三十五年造船科卒

支部長 増田 浩

大阪支部は、平成二十五年十一月二日(土)大阪市東心斎橋にある、「中国料理大成閣」にて第十四回支部総会を開催いたします。皆さんがこの「にしきうら」をお読みに成る頃は、開催後に成ります。総会が三年に成りましたので、一年間ほんの少し早まりました。

前回総会で、次の総会までの間「お花見」や「大相撲見学」「淀川の花火見学」など楽しみたいと決議しましたが、実行されたのは造幣局の桜の通り抜けが三回実行されただけでした。おそろしく今回もそうした提案があるものと思ひます。その都度全員にお知らせすべきところですが、予算の都合でできませんので参加したい方は、支部役員までお電話下さいますようお願い致します。色々な機会を作り同窓会の融和親睦に努め絆を強めて、「すわ鎌倉」に間に合う支部を目指しましょう。

大阪支部役員名簿（平成25年度）

役 職	氏 名	卒 年
顧問	野 並 允 温	30T
顧問	松 村 隆 司	32M
支 部 長	増 田 浩	35 S
副支部長		
事務局長	広 瀬 直 記	43 C
会 計	浜 口 博	40 S
会計監査	橋 本 典 雄	32 T
"	藤 戸 正 万	34 T
理 事	谷 博 之	29 M
"	藤 本 武	30 M
"	能 見 教 男	30 T
"	西 田 義 照	31 T
"	正 延 善 彦	31 T
"	松 下 留 吉	32 M
"	宮 本 光 久	39 M
"	井 上 博	43 M

卒業年度は昭和です。後のローマ字は M（機械科） S（造船科） T（電気通信科） C（化学科）

高知支部だより

昭和四十一年化学工業科卒
支部長 林 和 夫

各地の同窓生の皆さん方お元気でしょうか。ご健勝でそれぞれの場で活躍されていることと存じます。私たち高知支部も高齢化が進み、支部活動等に支障をきたす場面が多々見られますが、元気な先輩方の叱咤・激励や、最近若手の方々が応援をしてくれる態勢が出来つつあり、年一回の総会を何とか乗り切っております。

さて、南国土佐も「龍馬」ブームがようやく落ち着いた。着いてきましたが、今年の夏は「よさこい祭り」が六十年を迎え、猛暑の土佐路に鳴子が響きました。

近年台風や大雨の災害は少なくなりましたが、他県への台風災害は、十五年前の高知市周辺に与えた豪雨災害を思い出します。地震や大雨、台風等の猛威は人間の力では防ぎ切れるものではありません。お互いに緊急状況に対応できる備えや行動を改めて見直しましょう。

《今年度の支部活動》

一、総会

・日時 五月十七日

・場所 高知会館

・内容 議事 懇親会 その他

《祝》清家 寛相談役（十八M）の米寿祝いをしました。

二、役員会

・三月 十二月 随時

三、レクレーション

・第五回須工同窓会高知支部ゴルフコンペ

日時 五月十七日

場所 高知ゴルフ倶楽部

参加者 三七名

優勝 中野純男(四十二S)

準優勝 利岡 守(四十一C)

三位 前田篤史(五十八S)

※参考記録

第一回 参加者五九名

優勝 岩佐敬祐(四十九S)

準優勝 合田正寛(恩師)

三位 中野勝馬(三十七M)

《祝》合田先生(八〇歳)、エージシュートを達成

(年齢以下のスコア)しました。

第二回 参加者四八名

優勝 羽方英文(四十M)

準優勝 徳弘公洋(三十八S)

三位 宮岡勝久(四十七M)

第三回 参加者六六名

優勝 田井徳満(三十三T)

準優勝 岩佐敬祐(四十九S)

三位 岡田 廣(五十一S)

第四回 参加者四六名

優勝 田井徳満(三十三T)

準優勝 松田 隆(三十七M)

三位 羽方英文(四十M)

四、役員名簿を掲載(情報の流失等に注意) します
ので、連絡等に活用して下さい。

高知支部役員名簿 (平成25年度)

役 職	氏 名	卒業区分
相 談 役	清 家 寛	18機械
"	森 下 春 茂	21機械
"	森 岡 清	26機械
"	井 上 健 弘	27機械
"	秋 山 正 元	30機械
支 部 長	林 和 夫	41化学
副支部長	橋 本 栄 彦	39化学
"	加 納 弘 史	40電通
会 計	石 黒 明 洋	40化学
会計監査	竹 崎 耕 作	37機械
"	福 井 正 義	47電気
理 事	福 永 徳七郎	25造船
"	広 見 豊	28造船
"	矢 野 保 照	30電通
"	横 畠 幸 一	30電通
"	竹 村 寿 夫	34造船
"	小 崎 求	36機械
"	竹 下 勝 之	37機械
"	山 中 弘 志	39電通
"	正 木 長 生	41電気
"	中 野 純 男	42造船
"	国 沢 明 正	47造船
"	門 田 克 彦	58造船
"	上 村 幸 宏	61機械

● 訃報のお知らせ

前支部長 中西安男氏は病氣療養中でしたが、残念ながら五月十二日に逝去されました。

須崎支部だより

昭和四十七年化学科卒

支部長 梅原正博

母校周辺も大変暑い日が続き、雨もあまり降らないため農作物への影響も懸念される今日この頃ですが、同窓会会員各位におかれましては、益々ご清祥の事と存じます。

須崎では八月二日から四日まで恒例の「須崎まつり」が開催されまして、著拳駕籠かきレースや二尺玉が上がる花火大会などたくさんイベントがありました。その中でも八月四日に行われました「ドラゴンカヌー大会」には県内外から約六〇チームの参加でレースが繰り広げられました。皆様もご承知の通り、このドラゴンカヌー大会は母校の造船科が艇を建造し、須崎市へ贈呈した事から始まり、今年で十五回目を迎えており、我々同窓生としまして大変思い入れのある大会となっています。例年母校のPTAチームも出場しており、校長先生の掛け声で今年も健闘されておりました。

今回のお祭り以外でも「ドラゴン甲子園」として高校生のドラゴンカヌー大会が七月に一三チームの参加で開催されています、機会がありましたら是非

おいでして下さい。

もう一つうれしいご報告があります。詳しくは学校からのご報告があると思いますが、母校造船部が福岡県柳川市で行われました「柳川ソーラーボート大会」において、スラロームコンテストで実業団記録よりも早いタイムで優勝致しました。一昨年は周回コースで優勝を果たしており、二回目の快挙となりました。八月八日の高知新聞で大きく報道され、同窓生としてもうれしい限りです。九月には祝賀会が開かれますので須崎支部からもお祝い金を贈呈したいと考えています。

須崎支部では四月に支部役員会を開催し、本年開かれます同窓会総会と次期役員改選について協議致しました。その後、八月になってソーラーボート優勝の報告を兼ねて校長先生と造船科木下先生にご出席をいただいて、総会開催の準備会を行い、現在、同窓会総会に向けて準備を行っている所です。

次期の役員体制につきましては、十年間支部長を務めさせていただきました私が退任致しまして、新支部長として昭和五十四年機械科卒業の坂本定浩氏が就任致します。副支部長には新たに平成元年化学科卒業の川上清英氏と私が就任し、現行の役員は全員留任で、新たに九名の若者に理事に就任して頂きました。本年九月より新支部長のもと、三十一名の役員体制で活動してまいりますので、いっそうのご支援や協力をお願い申し上げます。

このお便りが皆様が届く頃には、初冬となっている事と思います。これから寒さがやってきます。同窓生の皆さまにはご健勝で益々のご活躍をお祈りいたします。簡単ですが須崎支部便りと致します。

窪川支部だより

昭和五十年機械科卒

支部長 西内一隆

皆さんお元気ですか。

このたびは、窪川支部の支部長をおおせつかりました。

何かと、不行き届きの点があるかと思いますが、精一杯頑張らせていただく所存でございますので、皆様方のご支援・ご協力を宜しく願ひいたします。さて、社会情勢においても、「団塊の世代の大量退職」、「技術の継承の危惧」等、今後の日本をどうやって支えていくか、今後の日本はどうなるのかと心配する話だけが先行し、その対策が遅々として進まない状況であり、後継者の問題が大きくとりあげられています。

また、現在同窓会窪川支部に参加されている方の大半が古い卒業生が中心となっていますので、若い前途洋々の卒業生が中心となるような支部会組織をめざし、他の支部の皆さんと連携をとり、同窓会窪川支部の益々の発展のために皆で頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、皆様方のご健勝とご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

幡多支部だより

沖ノ島遠征

昭和四十三年機械科卒
支部長 宮 本 博 行

十月十日午後三時、宿毛市片島港に磯釣りの渡船が次々に着岸してきた。その中の一隻が「金誠丸」、金子誠君（昭和四十三年機械科卒）の船だ。今回沖ノ島遠征でお世話になる一人である。

沖ノ島は皆さんご存じのとおり、四国で一番南の離島で、島には四国百山の一つの妹背山があり、釣りのメッカとして、今多くの釣りファンがおとずれている。

今日も大勢の釣り客がそれぞれの船から降りてきた。四万十市中村から、私（昭和四十三年機械科卒）と国見成史君（昭和四十三年電気科卒）の二名が「金誠丸」に乗り込んだ。「金誠丸」は折り返し沖ノ島へ直行する。海は前線の影響で少しうねっているが、船は全速力で沖ノ島へと進み、母島港へ着岸した。

今は宿毛工業高校があるので、須崎工業高校へ行く人はいなくなったが、その当時は沖ノ島からはるばる須崎工業高校へ行く人が多くいて、今回の遠征でも現在島に在住している卒業生が四名集まってくれた。宴会が始まると、在校中当時の怖い先生、先輩、同級生等の話に花が咲き、時間を忘れて夜が更けるまで飲み明かした。

翌日はのんびりと島で過ごし、沖ノ島に別れを告げた。楽しい沖ノ島遠征を計画してくれた島の卒業生に感謝感謝の旅だった。

中西安男前副会長を偲ぶ

昭和三十四年造船科卒

竹 村 寿 夫

この頃、新聞の訃報欄を見るのが何となく憂鬱になつてきた。理由は言うまでもなく、自分より年少の人の訃報が毎日のように報じられることと、ほぼ毎月のように必ずそこに何人か知人の名を見出すからだ。そのたびに自分もそう遠くない将来、ここに

こうして名前が掲載されることになるのだろうかという思いが、ひとりでに頭を過ぎるから楽しからうはずはない。これは多分、ある一定の年齢に達した者の共通の感慨ではないかと思う。

平成二十五年五月十三日朝六時、いつものようにコーヒを飲みながら新聞のページをめくった。そしていつものように何気なく訃報欄に視線を落とした。すると、突然「父中西安男儀病氣療養中」ところ五月十二日午前一時十五分、満七十四歳にて帰幽いたしました。……」という記事が目飛び込んできた。「あつー」私は驚愕のあまり、思わずカッパを落としそうになった。途端に心臓が早鐘を打つ。と同時に「なぜだ？」という疑問が瞬時に脳裏を過ぎった。それはわずか二ヶ月前に医療センターのロビーでばつたりとお会いし、立ち話をしたばかりだったからだ。あの時にはそれほどの緊迫感を感じられなかったのに……。私は新聞をたんで庭に出た。初夏のような明るい日差しがようやく東の空に顔をのぞかせていた。

「あれが最後になったのか。それにしても……」私は中西さんの温顔を臉に浮かべながら天を仰いで嘆息した。

県外生活の長かった私が大阪で定年を迎え、二十八年ぶりに故郷の高知に帰って来たのは平成十一年四月、ちょうど桜の花が満開のころであった。中西さんに初めてお会いしたのは、ようやく高知での第二の人生が落ち着きを見せ始めた、平成十四年一月二十一日のことである。その日私は、不思議な縁で、帰郷後急速に親しくしていた大先輩の吉岡豊延さん（機械科一種第一期生 昭和二十年卒）から、彼と親しい須工OBの仲間達が自宅に集まつて新年会をやるので、君も来ないかというお誘いを受けた。もちろん、当時に飢えていた私には願ってもない機会で、吉岡さんのご好意に感謝しつつ喜び勇んで参加させていただいたことは言うまでもなかった。その時のメンバー五人はもちろん私にとつては初対面の大先輩ばかりで、須工草創期の幹事たる方たちばかりであった。なかに初代同窓会会長を務められた田辺傳造さん（機械科二種第一期生 昭和十八年卒）のにこやかな笑顔があった。皆さんはもちろんお互い旧知の間柄である。私はやや緊張しながら皆さんにご挨拶した。宴が始まつて二十分ぐらい経った頃だろうか、仕事で遅れていた一人



の男が吉岡さんの奥様に案内されて二階の宴席へ駆けつけて来た。それがその後、わずかに十年ばかりだが、私と深い交わりを結ぶことになる中西安男さんであった。聞けば彼は昭和三十二年機械科卒のこと、ということは私より二期先輩だから、在学中一年間は礼の校舎で共に学んだわけだが、科が違ってもあってむしろ接触はなかった。

この夜、先輩達の話題は中西さんに集中した。彼が東洋電化を退職した後、急成長を遂げつつある香美市の食品会社へ三顧の礼で迎えられたこと、あるいは彼のご息女がアメリカの大学を卒業する際、奥様とご一緒に卒業式に出席して大いなるカルチャーショックを受けたこと、またその彼女がインターネット大手のヤフーに就職したこと等々、誠に興味深い話題ばかりだった。そのほかにも、東洋電化の子会社である食品会社へ出向中、高知市内の飲み屋を一軒一軒営業に回って、自社製品を売り歩いた苦労話や裏話、それらを何の誇張もなく、時にはユーモアを交えて笑いを誘いながら静かな口調で訥々と話すのである。先輩達の中西さんを見る目は優しかった。また中西さんの先輩達に対する礼を持った節度ある応対も見事で、私はいつべんにこの先輩方の人柄に魅了されてしまった。それと同時に、この夜の集いを契機として、これまであまり意識したことのない同窓生という名の絆の大切さを地元で充実した日々を送るためには否応なく再認識せざるを得ないかも知れないと思ったのである。事実この日のことがあってから、私は出来るだけ同窓会の集いには積極的に参加することを心がけたが、その成果は回を重ねるごとに大きくなり、それにつれて私の交友関係も次第に広がりを見せてきた。

その当時の高知支部長は確か秋山正元さんであったが、その後の役員改選で中西さんが支部長を務めることになり、私が補佐役の会計をおおせつかることになった。彼の親身に満ちたご指導とご好意を得ることになったのはそのときからである。

以来、毎年二回の支部役員会で顔を合わすのはむしろのこと、私と中西さんはお互い、公私にわたって何かと用事を作ってお会いした。大抵の場合、酒場での語らいであったが、時には彼の会社であったり、喫茶店であったりした。話題は仕事や同窓会や人物月旦だけに留まらず人間社会の森羅万象に及び、時間を忘れて話に熱中した。そしてその都度、彼の底知れぬ懐の深さと、度量の大きさを認識させられたことだった。特筆すべきは普段の彼からは想像もつかないほどの芸達者なことで、特にある芸能人の物真似は何度見ても白眉だった。(但し、私はそこに彼の生の哀しみを感じていたが……)

そんな中西さんが一度だけ私の前で涙を流したことがある。お互い子ども時代の体験を語り合っていた時のことである。あの頃は皆貧しかったが、とりわけ僻地から須崎の町に下宿して学校に通わざるを得なかった生徒にとつては、家族に経済的な負担と犠牲を強いる苦しみは確かに重荷だった。私の故郷も通学不能の田舎だったし、中西さんも当時としては山深い池川の出身である。きつと自分のために苦闘するご家族の姿が、この時脳裏を過ぎったのである。しかしそのこともまた、中西さんのすばらしい人間性の一面として尊敬し評価こそすれ、決して彼の人物像を貶めるものではなかった。

私と彼の高知支部におけるコンビは二期四年で役割を終えた。しかし彼はその後も本部の副会長とし

て森岡会長を支えることになる。その彼が自分の身体に、これまでにない異変を感じて療養に専念せざるを得なくなったのは、平成二十四年の初旬のことと聞く。それからの彼は類まれな意志力で、ひたすら療養に努めながら、必死の思いで再起を図ったが、ついにその望みはかなえられなかったのである。それは、彼自身にとつても、またご家族にとつても痛恨の極みであつたらう。

医療センターで会った時、二人が別れ際に交わした最後の言葉は「お互い、もう十年生きましようや」であつた。

告別式でご長男が語ったところによれば、中西さんは死のわずかに二、三週間前、奥様と共に東京に住む二人のお子さんを訪ね、楽しいひと時を過ごして来たという。彼にすれば何もかも分かった上での、予定の行動だったに違いない。そして、最愛の子どもたちに対する最後のお別れがしたかったのである。意識をなくする前の最後の言葉は「カラオケに行きたい」だったと言う。最期の最期までユーモアを失うことなく悠然として旅立った中西さん。自らの人生に対して、これほど見事な幕引きをした人は私は知らない。

すばらしい人間、すばらしい同窓生であつた。謹んでご冥福をお祈りする次第である。

合掌

事務局だより

平成二十五年年度

総会報告

事務局長 梅原 正博



会員の皆様におかれましては益々ご健勝で活躍の事とお慶び申し上げます。

さて、私こと、梅原正博(昭和四十七年化学工業科卒業は、平成二十五年五月十一日に母校で行われた本部理事会におきまして井上健弘前事務局長に代わり、新たに事務局長に選任されました。何分若輩でございますが、皆様方のご協力やご助言を頂きながら職務を全うしたいと考えますのでよろしくお願ひ申し上げます。

さて、母校の近況につきましては細美教頭先生からご報告があると思いますので、今回の事務局便りには先日開催されました本部総会のご報告をさせていただきます。

本年は三年に一度の総会の年で、去る九月二十八日(土)に須崎市大間のJ.A土佐くろしお三階ホールで開催し、佐々木校長先生・細美教頭先生・植田元機械科教諭のご臨席を賜りました。会員では県内外の支部長さんをはじめ同窓生一五八名の皆さんのご参加を頂きました。参加者の構成は昭和卒業の同窓生が一一六名、平成卒業の同窓生が四二名で、年の差七〇歳という須崎工業高校の歴史を感じる総会を開

催する事が出来ました。

総会終了後の懇親会も大盛り上がりで、おいしいすさきの魚や料理、お酒を酌み交わし、最後は井上前事務局長の先導で全員が校歌を合唱し、三年後の再会を約束してお開きとなりました。

総会の内容につきましては以下のとおりです。

議題

- 一、平成二十二・二十三・二十四年度事業報告
- 二、平成二十二・二十三・二十四年度会計報告
- 三、監査報告
- 四、会則・規定の改訂
- 五、役員改選・新役員挨拶
- 六、平成二十五年年度事業計画
- 七、平成二十五年年度予算
- 八、その他

会則・規定の改訂の内容につきましては以下のとおり承認されました。

議題4・会則・規定の改訂

改訂前

会則 第4章 役員

第7条 役員の選出は、次の通りとする。

- (1) 会長・副会長・会計・監査は理事会において選出する。
- (2) 理事は総会において承認された者、及び母校在職正会員とする。
- (3) 常任理事は、理事会で選出する。

改定後

第7条 会長・副会長・常任理事・理事・会計・監査は理事会において選出する。

役員改選

全体の役員名簿は最後のページに記載してありますのでご覧ください。

新しく役職に就かれた方々は以下のとおりです(敬称略)。

相談役

森岡 清(前会長)
和夫(前常任理事・高知支部

会長

竹村 寿夫(前理事)
戸梶 昭雄(前常任理事)

副会長

梅原 正博(副会長・前須崎支部長)
川上 清英(前監査)

事務局長

橋本 栄彦(高知副支部長)
加納 弘史(高知副支部長)

常任理事

西内 一隆(窪川支部長)
福原 靖幸(須崎支部理事)

理事

海地登志夫(須崎支部理事)
山下 剛史(須崎支部理事)

監査

高知支部総会出席
卒業生住所確認はがき発注

二十五年度の事業につきましては、

四月 母校教職員歓送迎会

五月 本部理事会

高知支部総会出席

開校記念式典 記念講演 林会長

開校記念品贈呈(ボールペン)

七月 四国インターハイ出場激励(水泳)

八月 総会についての理事会

九月 造船部柳川ソーラーボート大会優勝祝賀会
同窓会総会開催

十月 四国大会出場激励

十二月 同窓会会報誌「にしきうら」刊行

二十六年

二月 卒業記念品発注

卒業生への終身会費納入お礼状作成

三月 卒業証書授与式 会長祝辞奏上

会計監査

となつております。

二十五年度の予算につきましては、一般会計で総額
3,102,272円が承認されました。

議題終了後、功労者表彰が行われ、長きにわたり
会長・副会長として献身的にご尽力いただき、現在
の同窓会の基礎を築いていただきました前会長森岡
清氏・前副会長兼事務局長井上健弘氏・前副会長中
西安男氏(本年五月に逝去されました)に会長より感
謝状が贈られました。

又、懇親会の前には本年八月の三日、四日に福岡
市で行われました柳川ソーラーボート大会において
母校造船部が見事優勝した時のDVDが放映されま
した。

以上、平成二十五年度の同窓会総会につきまして
ご報告させていただきます。

会員各位におかれましては、時節柄何かとお忙し
い時期で、寒さも益々厳しくなりますが、さらなる
ご活躍とご健勝をお祈りいたしますとともに、同窓
会へのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

終身会費納入済者名

(平成22年12月7日から平成25年8月末日までに納入いただいた方々)

ご協力に感謝とお礼を申し上げます。

岸本 充弘
坂本 浩基
坂本 将規
嶋崎 千晃
下元 竜太
高橋 勝志
寺田 愛実
戸田 寛之
中田 広和
中平 純平
長山 朋弘
林 新
福島 貴之
藤原 裕磨
政岡 幸汰
明神 史織
森 一馬
山崎 匠
山本 優斗
結城 直道
吉川 汰一

川村 勇貴
久保地隆介
佐々木泰賀
田中 涼
谷脇 航
津野 央規
中山 裕介
西山 兼希
馬場 浩
岡林 悠理
松本 和也
明神 裕也
村尾 祐太
森光 優毅
山下 聖
横畠 翔一

電気情報科 (28名)

石村 彩加
市川 魁秋
市川 裕理
伊藤 大介
海地 思穂
大西 舞
岡添 聖也

近澤 一幾
出来 冬馬
中嶋 一貴
中山 裕也
西村 敬広
西森 正浩
野島 翔
弘田 大輔
藤田 修悟
牧野 貴史
松田 大輝
宮本 和輝
安田 彰光
柳野 友洋
山崎 晃軌
山崎 優
横山 恭兵
横山 稔也

造船科 (21名)

大藤 雅都
岡崎 祐正
岡村 朋和
鍵山 貴郁
片山 拳太

〈平成20年卒〉

造船科
浅井 佳宣

〈平成22年度卒〉

機械科 (36名)

青木 大輔
石川 和也
石川 翔太
出間 貴洋
出間 悠雅
梅原 一樹
大崎 修平
太田 晴也
大森 健吾
岡田 凌
金田 卓也
下元 群
下元 裕翔
高橋 太朗
高橋 優人
武田 浩
谷 憲吾
田部 雄大

平成22年度納入者

〈昭和34年卒〉

機械科
庄野 暁

〈昭和35年卒〉

機械科
島田 博美

〈昭和39年卒〉

機械科
宮本 光久

〈昭和41年卒〉

電気科
川村 雄二

〈昭和45年卒〉

機械科
森岡 輝男
電気科
高橋 廣徳
電気科
吉田 文雄

ユニバーサル
デザイン科 (18名)
市川阿由実

松本 稜平
森光 正毅
山崎 雄斗

〈平成24年度卒〉

機械科 (24名)

石邑 亮典
植田 義基
堅田 淳也
小松 弘員
笹岡 聖樹
佐々木 英明
高野 恭輔
谷脇 玲雄
田部 和希
津野 幹雄
利岡 眞人
中山 貴詞
中山 貴裕
中山 直人
長山 尚也
鍋島 有貴
藤原 隆聖
松本 琢巳
村上 慶太
山崎 拓哉
山崎 博仁
山崎 正人
山中 旭
山本 瑠晟

造船科 (20名)

池田 黎
大坪 功
久保 京新
笹岡 翔太
嶋崎 耕平
島村 直樹
高橋 大地
高橋 広樹
谷脇 伶
西村 大樹
熊見 卓利
野嶋 孝昭
野町 友輝
浜口 寛基
林 晃也
平尾 英史
堀岡 武史

電気情報科 (24名)

出間 龍也
今城 遼
岩佐 春來
大崎 和人
大崎 康平
大西 亮司
岡 夏輝
岡田 伊織
北岡 天翔
楠瀬健太郎
酒井 耀
佐藤 大樹
嶋岡 壮史
宗崎 平
瀧本 新
中平 英志
中村 恭典
中山 一紫
西村 暉則
濱田 隼人
福井 啓
宮崎 柁斗
村上 祐貴
山崎 友太

ユニバーサル

デザイン科 (23名)

池田 結
市川 棕子
乾 早紀
井上亜久里
氏原可南子
大藤 義一
大和田千琴
岡本 平
鎌倉 涼香
下元 沙耶
高橋 静香
高橋 宏昌
瀧本里緒菜
土居 裕人

隅田 智也
田所 良啓
田村 任麻
富田 勇人
長山 佳与
西岡竜之介
西森 友樹
野町 達也
濱田 愛生
濱田 雅樹
政平 直也
松田 涼
三本 裕也
森崎 康揮
山崎 弘輝
山崎 直
山崎 光歩
山崎 涼平
山本 祐輝
行岡 心平
吉田 有児

ユニバーサル

デザイン科 (13名)

池田 勇次
石本 直樹
石本 陽祐
今橋 瑤
岩崎 加奈
蛭子 友貴
大坪 令
中内 信吾
西森 愛佳
西森 公也
宮本 祥
明神 愛子
渡邊 晴佳

平成24年度納入者

〈昭和34年卒〉

機 械 科
濱田 榮索

中久保健人
中平 智康
鍋島 尚登
西村 和滉
橋田 将紀
日浦 有斗
藤田 祐
松浦 聖
美馬 龍
森野 嵩平
矢内 翔
矢野 仁康
山崎 裕司
山下 裕規
山本 勝也

造船科 (16名)

井谷 嘉貴
岡部 圭太
奥田 真大
上村 明弘
久保 大成
久万澤純一
黒原 啓斗
下元 悠平
佃 真弥
中山 亮
藤原 滉平
松尾 幸義
山口 邦道
山崎 将史
山本 貴明
横田 雄也

電気情報科 (32名)

青木 敬
青木 雅浩
井上 鴻平
大黒 正貴
大崎創二朗
大崎 雄大
小野 新
岸本 拓馬
北川 雄一
崎山 海斗
佐々木数弥

市川 智美
今橋華菜代
恵良 更紗
奥田 瑠菜
奥代 夏奈
笹岡 里穂
多賀 佑季
武田 真奈
武村 沙耶
濱田 康司
松坂 百花
松山 花乃
峯 朱乃
本井慎太郎
森田 早紀
山崎 まき
吉川奈津希

平成23年度納入者

〈昭和49年卒〉

化学工業科
藤本 浩

〈平成23年度卒〉

機械科 (35名)

池 孝義
今橋 卓也
岩上 蒼輝
大野 正太
岡崎 蓮
岡田 康司
奥代 一貴
小野 智也
堅田 考昭
川野 和哉
川渕 裕貴
北川 大智
佐竹 諒
嶋内 雅峻
竹内 亨介
谷添 清二
玉川 幸誠
玉木 優貴
津野 智弘
戸田 成亮

友澤 拓葉
西森 理沙
林 佳穂
味元あきほ
森田まりあ
森光 祐太
安岡 魅紅
山崎 菜穂
山脇 世良

同窓会終身会費納入のお願い

同窓会の運営は、会則第7章会計、第21条に基づいて、会員の皆様からの入会金、会費、寄付金を以って充てていますが、その中でも卒業生からの終身会費が、主な財源となっています。

事務局におきましては、納入いただきました終身会費を積み立て、その利息で、活動資金の大半を捻出しています。

この実績にご理解戴き昭和53年以降の卒業生は、卒業の時点でほとんど納めてくれていますし、平成4年以降の卒業生は、卒業時全員納入いただけるはこびとなっています。

終身会費未納の皆様方には、(会報の中に郵便振り込み用紙をはさんでいます) 同窓会活動を今後とも益々発展させるため、是非とも早い時期に終身会費を納入下さいますよう、ご協力をお願い致します。

尚、平成8年8月の総会にて終身会費を1万5千円に値上げさせていただきました。よろしくお願い申し上げます。

平成25年度納入者

〈昭和47年卒〉

化学工業科
吉岡 彰

平成22・23・24年度決算報告(会計)

平成22年度一般会計決算報告書

【収入】

単位(円)

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	223,084	
新入生入会金	218,000	2,000円×109名
定期預金利息	90,803	
普通預金利息	998	
雑 収	9,156	平成22年度同窓会総会残金
特別会計補助	2,250,000	
合 計	2,792,041	

【支出】

項 目	金 額	備 考
会 議 費	43,590	理事会・その他
事 業 費	29,925	開校記念品代(ボールペン380本)
〔 1,246,632 〕	59,482	卒業記念品代(印鑑(ケース付)103名)
	27,300	卒業証書用丸筒(250円×104本)
	1,100,000	会報送料・会報用封筒代・会報印刷代
	29,925	タックシール代
通 信 費	24,495	
事 務 費	114	
慶 弔 費	219,105	
旅 費	396,640	
支 部 配 分 金	761,420	
雑 費	7,235	
予 備 費	41,210	同窓会規定集印刷代、住所確認用ハサキ代等
合 計	2,740,441	

平成23年度への繰越金額 収入2,792,041 - 支出2,740,441 = 繰越51,600円

(繰越金額の内訳: 高銀通帳 4,707円、現金 46,893円)

平成22年度特別会計決算報告書

単位 (円)

【収入】

項 目	金 額	備 考
前年度未累積積立額	31, 702, 362	
平成22年度納入額	1, 545, 000	15, 000円×新卒103名
	120, 000	15, 000円×旧卒 8 名
貸 付 金 返 済 額	600, 000	野球部バス購入資金
合 計	33, 967, 362	

【支出】

項 目	金 額	備 考
一 般 会 計 補 助	2, 250, 000	
合 計	2, 250, 000	

【平成23年度への累積積立額】

収 入 支 出 積 立 額
33, 967, 362－2, 250, 000＝31, 717, 362

【貸付金】

項 目	金 額	備 考
野球部バス購入資金	1, 100, 000	平成18、19、20、21年度に350万円の
貸 付 金 返 済 額	600, 000	うち240万円返済
貸 付 残 高	500, 000	平成22年度返済分

平成22年度同窓会総会決算報告書

単位 (円)

【収入】

項 目	金 額	備 考
会 費 - 1	585, 000	須崎支部117名
会 費 - 2	128, 000	高知支部25名+1
お 祝 金 等	48, 000	来賓祝金・他支部会員会費等
合 計	761, 000	

【支出】

項 目	金 額	備 考
チケット作成費	1, 260	用紙代
新 聞 広 告 代	133, 350	9/4日 高知新聞1面掲載
	13, 570	酎ハイ
	4, 224	お茶
飲 み 物	52, 600	日本酒 45, 500 焼酎 7, 100
	42, 000	ビール
料 理	386, 000	
会 場 費	44, 000	会場費 30, 000 当直費 14, 000
バス代補助	50, 000	借上げ代
事務的経費	8, 465	封筒代 3, 465 資料印刷代 5, 000
雑 費	16, 375	料理贈い5名 15, 500 著代 350
		振込手数料 525
合 計	751, 844	

収入761, 000－支出751, 844＝9, 156円
この金額は平成22年度一般会計の雑収入に繰入

監査報告

領収書等により監査の結果、金額その他については相違なく適正に執行されていきます。

平成23年4月5日

監 査

山本 孝志

川上 清英

平成23年度一般会計決算報告書

【収入】

単位 (円)

項 目	金 額	備 考
前 年 度 繰 越	51,600	
新 入 生 入 会 金	204,000	2,000円×102名
定 期 預 金 利 息	267,428	
普 通 預 金 利 息	798	
雑 収	19,973	高知銀行終身会費徴収口座より過年度残金分
特 別 会 計 補 助	1,507,362	
合 計	2,051,161	

【支出】

項 目	金 額	備 考
会 議 費	34,626	理事会・その他
事 業 費	28,350	開校記念品代 (ボールペン360本)
[108,990]	55,440	卒業記念品代 (印鑑 (ケース付) 96名)
	25,200	卒業証書用丸筒 (96本)
通 信 費	30,967	
事 務 費	261	
腹 巾 費	393,000	
旅 費	356,395	
支 部 配 分 金	761,420	
雑 費	7,600	
予 備 費	25,000	「校歌の昔」の額縁代
合 計	1,718,259	

平成24年度への繰越金額 収入2,051,161－支出1,718,259＝繰越332,902円

(繰越金額の内訳：高銀通帳312,848円、現金20,054円)

平成23年度特別会計決算報告書

【収入】

単位 (円)

項 目	金 額	備 考
前年度末累積額	31,717,362	
平成23年度納入額	1,440,000	15,000円×新卒96名
	15,000	15,000円×旧卒1名
貸 付 金 返 済 額	300,000	野球部バス購入資金
合 計	33,472,362	

【支出】

項 目	金 額	備 考
一 般 会 計 補 助	1,507,362	
合 計	1,507,362	

【平成24年度への累積額】

収 入	支 出	積 立 額
33,472,362	1,507,362	31,965,000

【貸付金】

項 目	金 額	備 考
野 球 部 バ ス 購 入 資 金	500,000	平成18、19、20、21、22年度に350万円のうち300万円返済
返 済 額	300,000	平成23年度返済分
貸 付 残 高	200,000	

平成24年度一般会計決算報告書

単位 (円)

【収入】

項目	金額	備考
前年度繰越	332,902	
新入生入会金	186,000	2,000円×93名
定期預金利息	57,465	
普通預金利息	841	
雑収入	0	
特別会計補助	1,940,000	
合計	2,517,208	

【支出】

項目	金額	備考
会議費	12,808	理事会・その他
事業費 [958,964]	26,775	開校記念品代(ボールペン340本)
	855,750	懸垂棒
	52,552	卒業記念品代(印鑑(ケース付)91名)
	23,887	卒業証書用丸筒(91本)
通信費	21,947	
事務費	0	
慶弔費	50,000	
旅費	226,192	
支部配分金	761,420	
雑費	8,405	
予備費	0	
合計	2,039,736	

平成25年度への繰越金額 収入2,517,208－支出2,039,736＝繰越477,472円

(繰越金額の内訳：高森通帳459,984円、現金17,488円)

平成24年度特別会計決算報告書

単位 (円)

【収入】

項目	金額	備考
前年度末累積積立額	31,965,000	
平成24年度納入額	1,365,000	15,000円×新卒91名
	15,000	15,000円×旧卒1名
貸付金返済額	200,000	野球部バス購入資金
合計	33,545,000	

【支出】

項目	金額	備考
一般会計へ補助	1,940,000	
合計	1,940,000	

【平成25年度への累積積立額】

収入	支出	積立額
33,545,000	1,940,000	＝31,605,000

【貸付金】

項目	金額	備考
野球部バス購入資金	200,000	平成18、19、20、21、22、23年度に350万円のうち330万円返済
貸付金返済額	200,000	平成24年度返済分
貸付残高	0	完済

監査報告

平成22年、23年、24年の会計報告については、それぞれの年度終了後に帳簿及び書類等を基に、厳正な監査を行いました結果、金額その他に相違はなく預金通帳・定期預金証書ともに確実に管理され、適正に執行されていることを確認いたしましたのでその旨ご報告します。

平成25年9月28日

監査

山本

孝志

監査

川上

沼英

平成25年度一般会計予算

単位 (円)

【収入】

項目	金額	備考
前年度繰越	477,472	
新入生入会金	216,000	2,000円×108名
定期預金利息	58,000	
普通預金利息	800	
雑収入	0	
特別会計補助	2,350,000	
合計	3,102,272	

【支出】

項目	金額	備考
会議費	50,000	理事会・その他
事業費	32,000	開校記念品代 (ボールペン340本)
	25,000	卒業証書用丸筒代 81名
	50,000	卒業記念品代 (印鑑ケース付 81名)
	1,150,000	会報印刷・会誌送料・封筒
	100,000	総会補助費
通信費	30,000	卒業生進路先住所確認用ハガキ・目隠しラベル代等
事務費	10,000	
慶弔費	200,000	インターネットハイ激勵金など
旅費	500,000	支部総会・記念講演講師等
		関東 200円
		中京 250円
		京滋 300円
		大阪 200円
		高知 200円
		須崎 160円
		窪川 250円
		幡多 300円
支部配分金	761,420	
雑費	10,000	
予備費	183,852	
合計	3,102,272	

平成25年度特別会計予算

単位 (円)

【収入】

項目	金額	備考
前年度未果積立額	31,605,000	
平成25年度納入額	1,215,000	15,000円×81名
合計	32,820,000	

【支出】

項目	金額	備考
一般会計へ補助	2,350,000	
合計	2,350,000	

【平成26年度への果積立額】

収入	支出	積立額
32,820,000	— 2,350,000	= 30,470,000

同窓会役員名簿（平成25～27年度用）

平成25年5月

役 職	氏 名	卒 年・科	居 住 地	備 考
相 談 役	清 家 寛	S18・機械2種	高知県高知市	
"	森 岡 清	S26・機 械	高知県南国市	
顧 問	岡 林 幸 保	S28・造 船	高知県高知市	
"	山 地 健 三	S39・化学工業	高知県土佐市	
名誉会長	佐々木 菊 雄		高知県須崎市	母校校長
会 長	林 和 夫	S41・化学工業	高知県高知市	高知支部長
副 会 長	細 美 俊 彦		高知県須崎市	母校教頭
"	竹 村 寿 夫	S34・造 船	高知県高知市	
"	戸 梶 昭 雄	S45・電 気	高知県高岡郡日高村	
"	梅 原 正 博	S47・化学工業	高知県須崎市	事務局長
常任理事	森 下 春 茂	S21・機械1種	高知県高知市	
"	坂 本 定 浩	S54・機 械	高知県須崎市	須崎支部長
"	川 上 清 英	H01・化学工業	高知県須崎市	
"	滝 直 道	S47・機 械	高知県須崎市	連絡理事
"	西 山 庸 一	S48・造 船	高知県須崎市	
理 事	秋 山 正 元	S30・電気通信	高知県高知市	
"	野 並 允 温	S30・電気通信	大阪府摂津市	大阪支部長
"	濱 川 嗣 郎	S31・機 械	京都府宇治市	京滋支部長
"	福 井 幸 正	S34・機 械	神奈川県横浜市	関東支部長
"	沖 良 二	S39・機 械	愛知県春日井市	中京支部長
"	橋 本 栄 彦	S39・化学工業	高知県高知市	
"	加 納 弘 史	S40・電気通信	高知県高知市	
"	宮 本 博 行	S43・機 械	高知県四万十市	幡多支部長
"	金 子 誠	S43・機 械	高知県宿毛市	
"	中 川 次 男	S44・機 械	高知県高岡郡中土佐町	
"	西 内 一 隆	S50・機 械	高知県高岡郡四万十町	窪川支部長
"	伊 藤 久 文	S52・電 気	高知県高岡郡津野町	
"	福 原 靖 幸	S57・電 気	高知県須崎市	
"	海 地 登 志 夫	H01・化学工業	高知県須崎市	
"	高 橋 誠 幸	H06・造 船	高知県高知市	
監 査	山 本 孝 志	S44・電 気	高知県高岡郡中土佐町	
"	山 下 剛 史	H06・電 気	高知県須崎市	
会 計	西 山 庸 一	S48・造 船	高知県須崎市	(暫定)

同窓会に関する連絡は会長 林 和夫まで 〒781-0311 高知市春野町芳原1245-1
TEL:088-841-6718

一、須崎工業高校の

教の庭に身と心

新天新地光明の
輝くもとに勇ましく
日々鍛いぬく健児団

二、自然の暗示わが教

太平洋の荒波は
わが人生の活動か
さらに心の平穩は
波靜かなる錦浦

三、工業報国理想とし

自主独立の精神を
いだき責務を怠らず
真理と正義重んじて
わが向上の道を逐う

(母校事務室からの伝言)

証明書が必要ときは、所定の証明書交付申請書（用紙は事務室に備付）を校長宛提出しなければなりません。

申請者には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していないので、現金、又は郵便小為替を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名郵便番号をお忘れなくご記入ください。

手数料は次のとおりです。

卒業証明書	一通につき四二〇円
成績証明書	一通につき四二〇円
単位修得証明書	一通につき四二〇円
送料	

送り先 千七八五―八五三三

須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三
高知県立須崎工業高等学校事務室
電話（〇八八九）四二一―八六一
FAX（〇八八九）四二一―七二五

証明書の件につき不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

同窓生の皆様お変わりございませんか。

失われた二十年と言われる深刻なデフレ不況が、政権交代による経済対策、いわゆるアベノミクスによって、ようやく多少だけ景気回復の兆しが見えてまいりましたが、まだまだ先行きには不透明感が漂っている今日のこのことです。皆様はいかがでしょう。

さて三年に一度発行の同窓会会報誌にしきうら
三十二号をお届け致します。母校の近況や各支部の
同窓生の動静、また母校への証明書発行依頼などに
ご利用下さい。同窓会も今年は本部役員の改選で新
しい会長を頂くことになり、また執行部も一部入れ
替わりましたが、新任者一同大いに張り切っている
ところでです。同窓生の皆様にはこれまで同様、宜し
くご指導ご協力のほどをお願い申し上げます。
ご寄稿くださいました母校の先生方や、役員諸氏、
また各支部長の皆様、大変お忙しい中、心のこもつ
た文章をお送り頂き誠にありがとうございます。今
後ともどうか宜しくお願い申し上げます。皆様の
ますますのご活躍とご健勝の心からお祈り致してお
ります。

編集子

編集子

会報「にしきうら」第三二号

平成二十五年十二月一日発行

高知県立須崎工業高等学校

発行所 同窓会事務局

編集 馬酔木舎

高知市瀬戸東町三一二八一

☎ (〇八八) 八四二—六九一四

印刷所
(有)西村謄写堂

高知市上町一―六―四

☎ (〇八八) 八三二—〇四九二